

日韓 交換留学プログラム：ソウル大学小児病院での研修 ソウル 2018.8.20-9.14

北海道立子ども総合医療・療育センター 脳神経外科 大森 義範

今回、JSPNとKSPNの交換留学プログラムで1か月間、ソウル大学小児病院で研修させていただきましたので、病院紹介と研修内容をご報告したいと思います。プログラム応募のきっかけは、2017年5月19日に韓国・ソウルで開催された第29回韓国小児神経外科学会(KSPN)、その中のKSPN-JSPN Joint Meetingに参加したことでした。会場のあったヨンセイ大学は、日本でいう慶応大学のようなポジションと聞きましたが、その巨大キャンパスと大学病院本院であるセブランス病院をはじめとする巨大病院群に圧倒されました。また、韓国からの発表は、扱っている症例数が多く、症例の集約化が徹底して行われている印象でした。韓国国内には小規模な小児病院は全国各地にあるようですが、小児脳神経外科の手術症例の多くがヨンセイ大学セブランス小児病院とソウル大学小児病院の二施設に集約されているということなので人口規模を考えると当然といえます。もっと詳細にどのような医療がなされているのか自分の目で確かめてみたいと、このときに思いました。また、JSPNとKSPNで日韓交換留学プログラムがはじまるという情報を得たので、そうであれば申し込んでもみようと決めました。

とはいうものの、海外留学経験のない自分は英会話がままならないのはもちろん、韓国語に関しては全くわかりません。この学会から帰ってきて、まずは韓国語会話学校を探しましたが、不規則勤務に融通が利きそうなきちんとした教室はなく、知り合いのついでで毎週月曜日開催の教室兼サークルのような緩い集まりに参加しました。といっても仕事が遅くなるために、月2回参加できるのがやっとでした。2017.11月に派遣が決定した後もなんだかんだ身が入らず、2017.12にソウルで開催されたAAACPNに参加、派遣先に決定していたソウル大学の先生に韓国語で話しかけ、流暢な英語で返答されるに至ってようやく焦りが出てきました。直前2か月ぐらいでだいぶ伸びたような気がしましたが、思い返すと乳児レベルから幼児レベルぐらいへの進歩で、小学生レベルには達していないというところで、2018年8月16日、研修のために韓国に降り立ちました。

ソウル大学病院は1885年に宣教師であり医師でもあるホルス・アレン氏が高宗皇帝の支援を受けてソウルに設立された韓国最初の近代式病院である廣恵院を源流としているということです。調べてみると、ヨンセイ大学セブランス病院も源流は同じようです。ソウル大学病院の主要病院は、ソウル大学医学部のある龍門キャンパス内に位置しています。本院(1377床)、小児病院(315床)、癌病院(86床)からなる病院群で、それぞれの建物が渡り廊下で連結されています。このキャンパスは、ソウル市中心部からやや東部にある大學路(テハンノ)と呼ばれる地区にあります、西側は劇場や文化施設が集約した若者が集まるエリアで、東側には昌徳宮(チャンドックン)という世界遺産に指定された宮殿があります。

小児脳神経外科スタッフは、以前にソウル大学医学部長もされていた一番年長のKyu-

Chang Wang 教授、Chairman である Seung-Ki Kim 教授、Ji Hoon Phi 副教授、Ji Yeoun Lee 助教授の 4 名で、肩書きを訳するとこのようになりますが、皆 教授と呼ばれています。日本のシステムとは異なり、各教授が連帯しながらも独立して診療を行っているという印象でした。僕が研修に入った時には他にフェロー 1 名、レジデント 2 名、インターン 1 名が在籍していました。平日は毎日手術が 2~3 件行われており、2017 年の手術件数は 643 件であったとのことでした。私は、毎日手術室で手術の見学を行い、他には神経病理や神経放射線のカンファレンスに参加しました。病棟回診は各教授が個々に行うスタイルで、タイミングがあれば一緒に回りました。手術はフェローとシニアレジデント、他に Physician Assistant(PA) の 3 人でほぼ全ての準備を行い、途中から担当教授が入るというスタイルで、ジュニアレジデントとインターンが手術に入る姿はありませんでしたので厳しい下積みが必要ということだと思います。PA は脳神経外科専属で 10 年の経験があり、慣れていないチーフレジデントよりも皮膚縫合が上手にみえました。脳神経外科メイン手術室の器械出し、外回り看護師は固定メンバーで、術者と意思伝達がうまくいかないという場面はなかったように感じました。手術室の風景は日本とそれほど変わりませんが、実用性を重視する国民性と上下関係に厳しい文化的背景を感じさせる違いがところどころにありました。滞在していた 1 か月間で行われた手術は 46 件あり、38 件の手術を見学することができました。Professor 達の仕事に関連して印象に残ったことを簡単に挙げてみます。

Kyu-Chang Wang 教授: 一椎弓切除式の Rhizotomy を初めて見学する機会がありました。専門外来があり、小児脳神経外科・小児整形外科・小児リハビリテーション科が同時に診察し治療方針をディスカッションすると聞き、大変合理的だと感じました。Seung-Ki Kim 教授: 毎週もやもや病に関連した手術を 3~4 件されており、手術方法は間接吻合のみでした。北海道地区では直接吻合を行うのが主流ですが、病気に対する治療コンセプトは大変勉強になりました。Craniosynostosis の手術治療には内視鏡とヘルメット治療を導入されており、こちらも見学するのは初めてでした。

Ji Hoon Phi 教授: 脳腫瘍とてんかん外科が主な専門領域で、週 1~2 件のてんかん外科をされていました。僕はてんかん外科を経験したことがほとんどなくディスカッションすらできないという状況でしたが、てんかん外科は小児脳神経外科医が取り組むべき分野だと強くおっしゃっていました。

Ji Yeoun Lee 教授: 二分脊椎の手術が主な専門領域です。再係留防止のために myeloplasty を丁寧に行い、Lyoplant というウシ心膜を原料とした人工硬膜を用いて硬膜管拡大を行っていたのが印象的です。見学した手術以外のことに関しても、普段疑問に思っていることを質問しましたが、年齢が同じ僕と比べ物にならない豊富な知識と経験をもとに親切丁寧に教えていただきました。

ソウル大学小児病院の強みはまずはその症例数の豊富さにあると思います。KTX で釜山ーソウルは 2 時間半ですから、ソウルの小児病院へ行く、というのは当たり前の感覚で、集

約化はそれほど困難なことではないのかもしれませんが、希少疾患も毎週手術症例があり、流れるように手術が進んでいきます。加えて、同じ敷地内に大学病院と小児病院が併設されており、連携が強固にできている、という点だと感じました。施設内には各部門のスペシャリスト集団があって、診療の幅が広く、知識の集積がなされています。

どの先生も英語は上手で、僕には英語で説明をしていただきましたが、コミュニケーションの基本は韓国語で行われ、世間話やコメディカルとの会話には幼稚園レベルの韓国語では当然ついていけなかったのが悔やまれます。韓国は9月が異動時期にあたるのでちょうど僕がいたころは歓送迎会シーズンにあたり、週に1~2回ペースで宴会があり参加させていただきました。同時期に韓国国内からの研修生も2名いたのですが、宴会には参加していませんでしたので、僕はもてなされていたと勝手に解釈しています。僕のおかしな英語と韓国語にも関わらず、世間話から文化・歴史・政治まで幅広い話をしていただき、大変楽しく過ごすことができました。また、北海道で大地震が起きた時にとっても心配していただいたことが印象的でした。

研修も残り3日になって、奈良県立医科大学より朴教授がソウル大学に来られて、頭部外傷の講義をしていただく機会がありました。続いて、僕が研修に関しての感想を話す時間をいただいたのですが、準備していた韓国語が途中でつまずくと頭が真っ白になってしまい、英語でもまともに話すことができないという大失態を犯してしまいました。朴先生に日本語を韓国語に通訳していただくという大変恥ずかしい状況でしたが、certificationと韓国の小児脳神経外科教科書もサイン入りでいただき、大変感謝です。後日聞いたところによると、韓国語を勉強してきたので嬉しくて贈っていただけることになったようです。

あっという間の4週間でした。ソウル大学での研修は大変勉強になりました。間違いなくソウル大学小児病院脳神経外科のスタッフは臨床、教育、研究においてスペシャルであり人間的にも素晴らしい方々だったと思います。韓国で沢山の友人、知り合いができたと思います。ソウル大学小児病院脳神経外科のスタッフの皆様には大変お世話になりました。受けたご恩は忘れないつもりです。そしてこのご縁をこれからも大切にしていきたいと思います。この貴重な機会を作っていただいたソウル大学小児病院小児脳神経外科の先生方、奈良県立医大の朴教授をはじめとするJSPNの先生方、留守にしている間にコドモックルを守っていただいた上司の吉藤先生、札幌医大の三國教授、おくりだしていただいた家族に感謝申し上げます。



Fig.1



Fig.2



Fig.3



Fig.4



Fig.5



Fig.6

Fig.1 ソウル大学病院本院

Fig.2 ソウル大学小児病院

Fig.3 手術室の様子

Fig.4 手術室にあるスマホの階級別充電スペース

Fig.5 レジデント送別会での集合写真

(前列 中央 私、左から 3 人目 Kyu-Chang Wang 教授、右から 2 人目 Seung-Ki Kim 教授、3 人目 Ji Hoon Phi 教授、後列中央 Ji Yeoun Lee 教授)

Fig.6 Kim 教授より certification と教科書の授与